

きんいん 金印とは

えどじだい てんめい ねん
江戸時代の天明4年（1784年）

しかのしま ひがしく はっけん
志賀島（東区）で発見されました。

ちゅうごく ししよ ごかんじよ けんむちゅうげん ねん
中国の史書『後漢書』に建武中元2年

（57年）後漢の光武帝が「倭奴国」

いんじゆ あた きじゆつ
に印綬を与えたと記述されています。

いんめん かんわのなのこくおう もじ ほ
印面には「漢倭奴国王」の文字が彫ら

れ、ちゅう へび
紐（つまみ）は蛇がとぐろを巻く

すがた
姿をかたどっています。



高さ 2.236 cm

印台の高さ(平均) 0.887 cm

印面の長さ(平均) 2.347 cm

重さ 108.729g

材質 金：銀：銅 = 95.1：4.5：0.5 (± 0.5%)

国宝への指定 昭和6年(1931) 国宝保存法による

昭和29年(1954) 文化財保護法による